

**エンタープライズサーバ「EP8000 630 model 6C4/6E4」において
「POWER4+(1.2GHz)搭載モデル」を追加**
POWER4(1.0GHz)の後継として、性能及び拡張性を向上



EP8000 630 model 6C4
「POWER4+(1.2GHz)搭載モデル」
(ラックマウントモデル)



EP8000 630 model 6E4
「POWER4+(1.2GHz)搭載モデル」
(タワーモデル)

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ(グループ長&CEO: 古川 一夫、以下 日立)は、このたび、米国 IBM 社の UNIX オペレーティングシステム(OS)である AIX 5L を搭載したエンタープライズサーバ「EP8000 シリーズ」のエントリーモデル「EP8000 630 model 6C4/6E4」において、現行の POWER4(1.0GHz)を搭載したモデルの後継として「POWER4+(1.2GHz)搭載モデル」を追加し、4月11日から販売開始します。

最新プロセッサ POWER4+(1.2GHz)を搭載(最大4個)したことにより、現行の POWER4(1.0GHz)を搭載したモデルに比べて約1.2倍の処理性能の向上を実現しました。さらに、様々な拡張をするためのオプションカード用内蔵 PCI スロット数を、現行の4スロットから6スロットに増強しました。

本製品は、性能及び拡張性を向上しながらも価格は現行機と同じに据え置いており、中小規模の Web システムやデータベース、OLTP(*1)システムといった様々な規模・用途のシステムを、優れたプライスパフォーマンスにて構築可能です。

*1) OLTP(On-Line Transaction Processing) : オンライン業務に関連する複数の処理を一つの処理単位にまとめて管理する方式。

今回のモデル追加は、ユーザがリソースをコアビジネスに集中し、高信頼性かつビジネスの変化に即応した最適なシステムを構築できる環境を提供する日立のサービスプラットフォームコンセプト「Harmonious Computing」に基づいています。

「EP8000 630」 POWER4+(1.2GHz)搭載モデルの概要

モデル	形状	プロセッサ	プロセッサ数	キャッシュメモリ (2プロセッサあたり)	メモリ容量	内蔵 PCI スロット数
EP8000 630 model 6C4	ラックマウント	POWER4+(1.2GHz)	1,2,4	レベル2 キャッシュ : 1.5MB	1GB ~ 32GB	標準 6 (最大 20)
EP8000 630 model 6E4	タワー			レベル3 キャッシュ : 8MB (1way 構成時は1プロセッサあたり)		6

「EP8000 630」 POWER4+(1.2GHz)搭載モデルの価格及び出荷時期

モデル	標準価格	出荷時期
EP8000 630 model 6C4	308万6,300円～	2003年4月25日
EP8000 630 model 6E4		

製品情報のホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/EP8000>

他社所有商標に関する表示

- ・AIX、IBM、PowerPC は米国における米国 International Business Machines Corp.の登録商標です。
- ・UNIX は X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・その他記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

本件に関するお問合せ先

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ
エンタープライズサーバ事業部 企画部【担当:喜多村】
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地
TEL : 0463-87-6786(ダイヤルイン)

以上

「EP8000 630 model 6C4/6E4」 POWER4+(1.2GHz)搭載モデルの特長

1. POWER4 + (1.2GHz)搭載による高速処理性能及び低消費電力化を実現

「EP8000 630 model 6C4」(ラックマウントモデル)および「EP8000 630 model 6E4」(タワーモデル)は、プロセッサを SMP*1 構成で最大 4way まで搭載可能なエントリークラスのサーバです。今回、動作周波数が向上(1.2GHz)したプロセッサの「POWER4+」を採用し、POWER4(1.0GHz)を搭載する「EP8000 630」の POWER4 搭載モデルに比べ約 1.2 倍の性能向上を実現しました。また、同時に、POWER4(1.0GHz)に比べ、約 16%のエネルギー消費効率の改善を図っており、サーバ運用コストの低減が可能です。

*1) SMP (Symmetric Multi-Processor) : 複数の CPU が同等な立場で処理を分担している対称型マルチプロセッサ

2. ミッドレンジクラスに迫る高いシステム拡張性

「EP8000 630 model 6C4/6E4」にて各種オプションカードを搭載する内蔵 PCI*2 スロット数を、POWER4(1.0GHz)搭載モデルの 4 スロットから 6 スロットに増設しました。内蔵 PCI スロット数が増えたことにより、コンパクトな筐体を活かしたシステム構築の幅が広がりました。なお、ラックマウントモデルの「EP8000 630 model 6C4」では、I/O ドロワー*3 の追加により、拡張 PCI スロットを最大 20 スロットまで増設可能です。最大 32GB のメインメモリ容量と合わせエントリークラスながらミッドレンジクラスに迫る高い処理能力と拡張性を実現しています。

*2) PCI(Peripheral Components Interconnect bus) : コンピュータ内のデータ伝送路

*3) I/O ドロワー : 拡張 PCI スロットやドライブベイなどを内蔵する I/O 拡張機構

3. 動的論理分割機能(Dynamic LPAR)をサポート

「EP8000 630」は、プロセッサやメインメモリ、拡張 PCI スロットなどシステムのリソースを複数の論理パーティションに動的に割り当てることができる動的論理分割機能(Dynamic LPAR)をサポートしています。そのため、1 台の「EP8000 630」をパーティションにより分割して「EP8000 630 model 6C4」では最大 4 つ、「EP8000 630 model 6E4」では最大 2 つの仮想的な複数台のサーバとして運用することが可能です。また各論理パーティションに割り当てられる場合、プロセッサやメモリ、拡張 PCI スロットは、システムを再起動することなく追加・削除することが可能なため、業務内容や処理量に応じたシステムリソースの有効活用を実現し、計画的なハードウェア構成変更などにも柔軟に対応することが可能です。

4. メインフレームクラスの信頼性と可用性(障害回避・対策機能)

「EP8000 シリーズ」はメインフレームで培った高い技術により、高信頼性・高可用性(障害回避・対策機能)を追求しています。これによりシステム停止につながる障害発生を大幅に低減し、安心できる利用環境を提供します。

(1) 動的プロセッサ切り離し機能

プロセッサやキャッシュメモリのエラーが一定回数を超えた場合にそのプロセッサを自動的に切離し、他プロセッサで処理を継続します。

(2) PCI バス障害リカバリ機能 / 動的 PCI アダプタ切り離し機能

PCI バスあるいは PCI アダプタ障害が発生しても、システムリブートを回避し、システムの処理を続行します。

(3) 高信頼・高可用(障害回避・対策機能)のための対策機能

スケーラブルデータベース「HiRDB」によるクラスタ構成において、現用系システムの OS 障害発生と同期した待機系システムへの即時切替通知や、現用系システムから待機系システムへの共有ディスクの高速切替えを実現するソフトウェア「HA Booster Pack for AIX」を用いることにより、従来、数分オーダーの時間を必要とした障害時のシステム系切替を 10 数秒という極めて短い時間に行うことが可能です。

5. 最新のソフトウェア環境を提供

オペレーティングシステム(OS)は、米国 IBM 社の UNIX オペレーティングシステム AIX 5L(Version 5.1 以降)に対応しています。優れたパフォーマンスと高い信頼性、Linux との高い親和性に加え、セキュリティや Java 実行環境などネットビジネス構築のためのオープンかつミッションクリティカルな基盤機能を提供します。ミドルウェア/アプリケーションには、統合システム運用管理ソフトウェアとして高い評価を得ている「JP1」をはじめとする日立オープンミドルウェアに加え、データベースマネージメントシステム(DBMS)製品の ORACLE^Rや SAP R/3^Rを含む SAP の E ビジネスプラットフォーム mySAP.com など豊富な ISV(Independent Software Vendor)製品が利用可能で、これらにより幅広いニーズに対応したシステム構築が可能です。

他社所有商標に関する表示

- ・AIX、IBM、PowerPC は、米国における米国 International Business Machines Corp.の登録商標です。
- ・Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ・Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems Inc.の商標または登録商標です。
- ・ORACLE は、ORACLE Corporation の登録商標です。
- ・SAP R/3[®]、mySAP.com は、SAP AG のドイツ及びその他の国における登録商標または商標です。
- ・UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

新製品「EP8000 630」 POWER4+(1.2GHz)搭載モデル の仕様

モデル		EP8000 630 model 6C4 (POWER4+ 1.2GHz搭載)	EP8000 630 model 6E4 (POWER4+ 1.2GHz搭載)
形状		ラックマウント	タワー
プロセッサ	プロセッサ名称	POWER4+	
	動作周波数(GHz)	1.2	
	プロセッサ数(way)	1, 2, 4	
レベル2キャッシュ(MB ^{*1})		1.5 (1way構成時:1プロセッサあたり/ 2,4way構成時:2プロセッサあたり)	
レベル3キャッシュ(MB ^{*1})		8 (1way構成時:1プロセッサあたり/ 2,4way構成時:2プロセッサあたり)	
主記憶容量	最小～最大(GB) ^{*2}	1～32	
内蔵ディスク容量	最小～最大(GB) ^{*2}	18～4,110	18～587
拡張PCIスロット数		標準6 (CPUドロー内蔵), 最大20 (I/Oドロー2台追加時)	6
I/Oドロー数		標準0～最大2	-
外形寸法 (W×D×H:mm)	CPUドロー	445×610×173 (4EIA ^{*3})	-
	I/Oドロー	482×610×178 (4EIA ^{*3})	-
	搭載筐体	標準ラック筐体 ^{*4} 低層ラック筐体 ^{*5}	300×762×530
電源(V)		100～127/200～240(単相)	
オペレーティングシステム		AIX 5L Version 5.1以降	
省エネ法に 基づく表示	エネルギー消費効率 ^{*6}	0.067	
	区分	F	

*1) 1MB(メガバイト)=1,024² バイト*2) 1GB(ギガバイト)=1,024³ バイト

*3) ラック搭載時の占有サイズ(1 EIA =高さ約 44.5mm)

*4) 標準ラック筐体(格納サイズ 36EIA)外形寸法 644×1,098×1,804 (W×D×H:mm)

*5) 低層ラック筐体(格納サイズ 23EIA)外形寸法 646×1,138×1,193 (W×D×H:mm)

*6) 省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除した値

このニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。
発表日以降に変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。
